

第1学年 生活科指導案

指導者 金野 瑞穂

- 1 単元名 みんな なかよし
「わたしのがっこうどんなどころ」

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(1)「学校の施設の様子および先生など学校生活を支えている人々や友達のことがわかり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。」をもとに構成した単元である。

本学級の子供たちは、生活科が好きで、大変意欲的に取り組んでいる。入学直後に校舎を巡った時には緊張しつつも初めて入る教室に興味津々で、戻ってきてから早速見つけたことを夢中になって話す姿が見られた。また、「もっといろいろな所を見たい、もう1度行こう。」と、さらに見たい・見つけたいという意欲もあった。小単元「ともだち たくさんつくろう」で、学級内で「なかよしだいさくせん」を行った際には、わずかな時間でもどんどん友達を見つけては自己紹介をし、ともだちシールをもらってうれしそうにしている姿がたくさん見られた。

本単元では、2年生に学校を案内してもらった経験を受け、校庭や校舎内を自分たちで探検し、友達同士、学年間で発見したことを紹介し合ったり、おうちの人に幸町小のよいところを紹介したりする活動を通して、施設の位置や特徴、役割、人の存在や働きなどに気づき、学校に愛着をもち楽しく安全に生活できるようになることを目指す。そのために探検したあとは「さいわいちょうしょうマップ」を用いて気づきを学級間や学年間で交流をする活動を繰り返すことで、活動を広げたり気づきを深めたりすることができるようにしたい。そして、最後に子供たちの気づきがたくさん集まったマップは、「さいわいちょうしょうよいとこマップ」として子供たちにとっての宝としたい。

子供たちは、初めての学校探検の際、校内の様々な教室やそこにある見たことのないものをたくさん見つけては、話す様子が見られた。しかし、なかなかそこにいる人がどんなことをしているのか、自分たちとどのような関わりがあるのか、というところまでは目が向いていなかった。そこで、本単元では、小単元「ともだち たくさんつくろう」で子供たちが行った「なかよしだいさくせん」と関連させて、校内の先生方や6年生とも探検と同時期に「なかよしだいさくせん」を行う。そうすることで、学校探検の中で子供が「施設」だけでなく「人の存在や働き」などにも気づくことができるようにしたい。

このような活動を通して、学校生活を豊かに広げ、楽しく安心して過ごすことができるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

学校を探検し、そこで見つけた幸町小のよいところを友達と伝え合う活動を通して、学校の施設や様子、そこにいる人々に気づき、親しむことで、楽しく安全に学校生活を送ることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

- 学校の施設、学校生活を支えている人々や友達に関心を持ち、楽しく学校生活を送ろうとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- 学校の施設の利用および学校生活を支えている人々や友達とのかかわりについて自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それらを自分らしく表現している。
(活動や体験についての思考・表現)
- 学校の施設、学校生活を支えている人々や友達の様子が分かり、それらと自分とのかかわりに気付いている。
(身近な環境や自分についての気付き)

3 部会研究課題とのかかわり

研究課題(2) 子供のこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方を探る。

- 相手意識を明確にすることで、目的をもたせ、活動への意欲を高める。
単元の導入時に、子供に6月の学習参観でおうちの人に幸町小のよいところを紹介しようと投げかける。子供が、「おうちの人に幸町小のよいところを紹介するために、探検しよう。」という明確な目標をもつことで、1回1回の探検により意欲的に参加できると考えた。
また、気づきの交流の場面でも、「幸町小のよりよいところを見つける」という目的ができることで、友達同士で紹介しあう場面でも、一方的に話すのではなく、相手の気づきも受け止められるのではないかと考えた。
こうして、常に目的意識をもって活動することで、子供が意欲を絶やすことなくとっておきの「幸町小のよいところ」を見つけることができるようにしたい。

研究課題(3) 子供に培いたい学びの力、またそのための手立てを明らかにした授業づくりをめざす。

- 子供の意識の移行をスムーズにする単元構成の工夫
子供たちは、繰り返しの活動の中で新たなことに気付いていく。入学して間もなくの学校巡りでは、幼稚園や保育所にはなかった教室やそこにあるものを目にして興味津々だった。また、戻ってきってから教師に見てきたことをたくさん話そうとする姿が多く見られた。学校探検を繰り返し行うことで、回を重ねるごとに子供の気付きが深まっていくような単元にしていきたい。
 - ・ 2年生に学校案内をしてもらった経験をもとに学校探検を行う。
↓
自分の振り返りと友達同士の伝え合い(学級⇒学年)
自分の発見と友達の発見の違いに気付く
さらに学校探検をしたいという活動への意欲を高める
 - ・ 自己紹介活動と並行とした学校探検
学校探検と並行して、友達や先生との自己紹介活動「なかよしだいさくせん」を行う。
初めは学級内で、次に学年で、そして繰り返しの学校探検と同時期に先生方やお兄さんに姉さんとの「なかよしだいさくせん」へと広げていくことで、自然と子供たちの興味や気づきが学校の施設⇒そこにいる「人」へと移行しやすくなるのではないかと考えた。

○活動の深まりを実感できるカードの活用と振り返りの場

子供たちが、おうちの人に紹介する「さいわいちょうしょうのよいところ」を見つけるには自分の発見カードを振り返るとともに、それをもとに教師や友達との充実した対話をし、心の中に閉まってあった無自覚の気づきを自覚していくことが大切であると考え。また、活動を繰り返すうちに、気づきがより詳しくなったり、人との関わりを通した気づきが増えたと、子供たち自身が感じたりできるようにすることで、最後には自信をもっておうちの人に紹介することができるようになるのではないかと考えた。

そこで、発見カードを「よいとこみつけたよ！」(物や施設に関する気づきを書くカード)と「すてきなひとみつけたよ！」(人に関する気づきを書くカード)の2種類用意することで、子供たちが振り返った時に自分や友達の発見の変容を見やすくする。

また、カードを通して子供との対話を図ることで、子供の思いや考えを把握し、その後の支援に生かしていけるようにしたい。

研究課題(5) 気づきの質を高める指導の工夫と改善を図る。

○ 友達の気づきを共有できる場の工夫

学校探検の際に子供が手元に持つ校舎マップを大きく拡大した、「さいわいちょうしょうマップ」を活用する。学校探検で発見したことや幸町小のよいところを書いた発見カードを使って、学年間で振り返ることで、友達の気づきを認め、さらに学校探検をしてみたいという意欲につなげていきたいと考える。また、このマップは子供がいつでも見ることのできる場所に掲示をし、自分の行きたい場所や会いたい人を決める時の参考になるようにしたり、友達や自分の気づきのよさに気づいたりできるようにしたい。

そして、やがて「さいわいちょうしょうマップ」は、子供たちの気づきがたくさん集まった「さいわいちょうしょうよいとこマップ」として子供たちにとっての宝としたい。

○ 気づきの質を高める声掛けや支援の工夫

学校探検を通して感じたり気付いたりしたことを、うまく表出できない子供や、気づきを自覚していない子供には、気づきを引き出す言葉かけやそれを認める言葉かけをする。また、ひとりひとりの気づきは必要に応じて友達に広めたりする。

4 児童の実態から(男子17人 女子17人 計34人)

(1) この単元を通して育てたい子供の姿と子供の思い・願い

この単元を通して育てたい子供の姿

- 学校の施設やそこに存在する人たちに興味・関心を持ち積極的にかかわろうとする子供
- 学校探検を通して気付いたことを、自分なりの方法で進んで友達に伝えられる子供
- 学校探検を通して、校内の施設、学校生活を支えている人々や友達の様子と、自分とのかかわりに気づくことができる子供
- 幸町小に愛着をもち、楽しく安全に学校生活を送ることができる子供

(2) 教師の願い・具体的な手立て

①生活への関心・意欲・態度

(教師の願い)

○学校の施設や学校生活を支えている人たちに関心をもち、楽しく学校生活を送ってほしい。

(具体的な手立て)

- ・単元の導入時に、「おうちの人に幸町小のよいところを紹介しよう。」と投げかけることで、子供が学校探検や友達との交流など、1つ1つの活動に目的意識をもって取り組めるようにする。
- ・校内の施設を自由に回ることができるよう、特別教室の鍵を開けておく。また、その教室の名前が分かるよう表示しておく。
- ・第一回目の探検の際には、各教室の入り口にシールを用意する。探検マップの行った場所に、そのシールを貼ることで、振り返りの際に活かせるようにする。
- ・学校探検と並行して、先生方への「なかよし大作戦」を行うことで、探検を繰り返すうちに子供の関心が施設からそこにいる人へと移行しやすくする。

②活動や体験についての思考・表現

(教師の願い)

・学校探検を通して気付いたことを、自分なりの方法で進んで友達に伝えられるようになってほしい。

(具体的な手立て)

- ・生活科室に、「さいわいちょうしょうマップ」を掲示し、探検で見つけたことや気付いたことをみんなで共有できるようにする。
- ・探検で見つけたことや気付いたことを表現することができるよう、発見カードを用意する。その際、うまく言葉で書けない子供は絵で描いて表現したり、対話の中で引きだした言葉を教師が記入したりするようにする。
- ・友達に伝える方法として、絵カードや写真、実物など工夫する。子供の発見した「よいところ」が友達やおうちの人により伝わるように、紹介の前に十分に準備をすることで、友達に認めてもらう喜びを実感し、自信がもてるようにしたい。

③身近な環境や自分についての気付き

(教師の願い)

・学校の施設、学校生活を支えている人々や友達の様子と、自分とのかかわりに気づいてほしい。

(具体的な手立て)

- ・子供たちが興味をもって、自由に校内を探検することができるように、事前に校内の先生方とその活動の趣旨を打ち合わせしておく。また、「なかよしだいさくせん」の協力をお願いもしておくことで、常時活動として子供たちが活動しやすいようにする。
- ・「さいわいちょうしょうマップ」を用いて学級間・学年間で気付きを共有できる場を設ける。
- ・発見カードは、施設や場所についての気付きを記入するものと、人に関する気付きを記入するもので色を変えることで、友達の気付きがよく見て取れるようにする。

5 指導計画（8＋常時活動）

次	時配	学習活動と内容	(常時活動) なかよし大作戦 & 自由に探検	教師の支援 (○) と評価 (◆)
がっこうたんけんにしゅっぱつ！	1	○2年生との学校案内を振り返り、校舎マップをもとに、行きたい場所を話しあって探検グループを決める。 (3人1組) ○探検の約束事について話し合う。		○子供が持っているような手持ちの地図と共に、子供の気付きを振り返られるように大きな「さいわいちょうマップ」を用意する。 ○グループごとに行きたい場所を計画できるよう、ワークシートを用意する。 ◆学校の施設に興味をもち、行ってみたい場所や会いたい人など自分なりのめあてをもって、探検に出かけようとしている。 (関心・意欲・態度) ◆探検には、約束が必要なことに気付いている。 (気付き)
	1.5	○グループごとに学校探検を行う。 ・探検したら、手持ちの校舎マップにシールを貼るようにする。 ・学校探検で発見したり気付いたりしたことを発見カードに書く。		○行った場所が子供に分かるように、各部屋にシールを用意しておく。 ○教職員には事前に学校探検の内容とめあて、子供に「なかよし大作戦」を求められたときにしてほしいことなどを伝え、協力してもらえるようにしておく。 ○発見カードがかけない子供には、教師が対話をし、引き出した気付きを記入する。 ◆時間や約束を守って、楽しく探検しようとしている。 (関心・意欲・態度)
0.5	○発見カードをもとに、学校探検でみつけた幸町小のよいところを友達に伝える。	○「さいわいちょうしょうマップ」を使い、紹介する場所をさしながら話したり、その場所に行って紹介したりしてもよいことにする。 ◆学校探検で見つけたことを自分なりの方法で表現している。 (思考・表現)		
1	○学年で「さいわいちょうしょうよいとこマップ」と照らし合わせて学校探検で発見したことや気付いたりしたことを交流する。	○知らせたいことを十分に表現できるように「さいわいちょうしょうマップ」を手の届く位置に用意するなど、場を工夫する。 ○紹介したカードは、その場で「さいわいちょうしょうマップ」に貼って称賛することで、諸感覚を使った発見についてほかの子供にも広がるようにする。 ◆学校の様子や学校生活を構成するいろいろな人の存在に気付いている。 (気付き)		

もっとしりたい！	2	○学校探検を行う。(2回目) ・交流したことをもとに自分で行きたい場所を決め、学校探検を行う。 ・発見カードを書く。	(常時活動) なかよし大作戦 & 自由に探検	○学校探検の時間を2時間目から業間にかかる時間に設定することで、探検中に先生方や上級生に会ったら「なかよしだいさくせん」を行いやすくする。 ◆時間や約束を守って、楽しく探検しようとしている。(関心・意欲・態度)
	1/2 2/2 (本時)	○発見カードをもとに、学校探検で見つけた幸町小のよいところを友達に伝える。 ・絵カードで ・写真で ・実物を用いて		○においや音など諸感覚を活用した視点にもふれ、子供の気づきを促す。 ○人との関わりについて気付いている子供を称賛し、物だけでなく人にも意識が向くようにする。 ◆学校の施設や人々に関心をもち、伝え合おうとしている。(関心・意欲・態度)
	1	○グループごとに、おうちのの人に幸町小のよいところを紹介し案内する。 ・絵カードで ・写真で ・実物を用いて ・その場に行つて		○できるだけその場に行つて紹介できるように、事前に特別教室など入つてもよいか確認しておく。 ○どうしても案内が難しい場所は、絵カードや写真などを用い、子供が伝えたいことがわかりやすいように工夫する。 ◆学校探検で見つけたことを自分なりの方法で表現している。(思考・表現)
	1	○「さいわいちょうしょうよいとこマップ」と照らし合わせて学校探検で発見したことや気付いたりしたことを交流する。 ○活動を振り返る。 ・○○グループが言っていた場所に、今度行つてみたいな。 ・学校には、いろいろな人がいて、ほくたちのために働いているんだね。		○「さいわいちょうしょうよいとこマップ」を振り返りながら、校舎内の物だけでなく人についての気付きが増えてきたことを取り上げ、学校の施設と人々に関心をもてるようにする。 ◆学校にはいろいろな仕事があり、みんなのために働いている人がいることに気付いている。(気付き) ◆学校がすきになり、学校の施設を上手に使えるようになった自分に気付いている。(気付き)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

学校探検を通して気付いたことや発見したことを友達や先生に伝えることができる。

(2) 展開 (7/8)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◆)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○今まで作ってきた「さいわいちょうしょうよいとこマップ」を見合うことで、もっとよいところを増やそうという意欲を高める。</p>
<p>もっとさいわいちょうしょうのよいところを見つけよう。</p>	
<p>2 学校探検をしたあとに記入した発見カードをもとに、友達に幸町小のすてきなところを知らせる。(ひとりずつ)</p> <p>・発見カードをもとにひとりずつ紹介する。 ⇒絵カードで 写真で 実物を用いて クイズにして 「これは、なんでしょう？」(拡大図)</p>	<p>○知らせ方の手順を掲示しておく。</p> <p>○子供が発見したことを伝える手段を工夫し、聞き手も興味をもって聞けるようにする。</p> <p>○よいところをなんとか伝えようとする姿を称賛することで、自信がもてるようにする。</p> <p>○新たな気づきや人との関わりに関する気付きを伝えた子供をほめることで、子供の意識を深めることができるようにする。</p> <p>○子供の気付きを共有できる言葉かけを工夫し、友達に広められるようにする。その際、動きも取り入れることで意欲をもって聞けるようにする。</p> <p>○友達からの反応があることで、子供の自信につなげられるようにする。</p> <p>◆学校の施設や人々に関心を持ち、伝え合おうとしている。 (関心・意欲・態度)</p>
<p>3 伝え合いを振り返る。</p> <p>・○○君が言っていた場所にわたしも今度行ってみたいな。</p> <p>・○○さんと同じところを見つけたよ。</p>	<p>○振り返りカードを用いて、発表した子供は自分の発表について、また、聞き手は、友達の見つけたすてきなところを振り返るようにする。</p>
<p>4 友達の紹介も含めて、自分がおうちの人にどんな幸町小のよいところを紹介するのか決める。</p> <p>・伝え合いの振り返りカードと、今までに書いた発見カードを見ながら、とっておきのよいところを決める。</p>	<p>○友達の紹介を聞いて、もっとよいところだと思った子供には、その場所や人のことを紹介してもよいことを伝える。</p>